

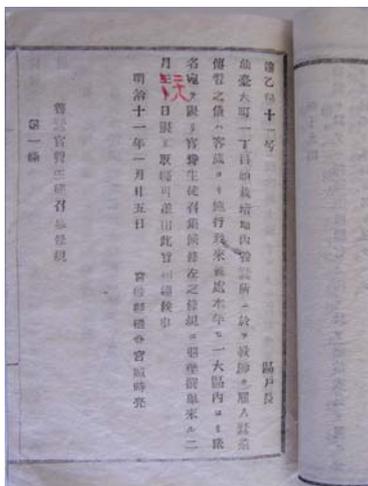
# 宮城県 公文書館だより

第 9 号

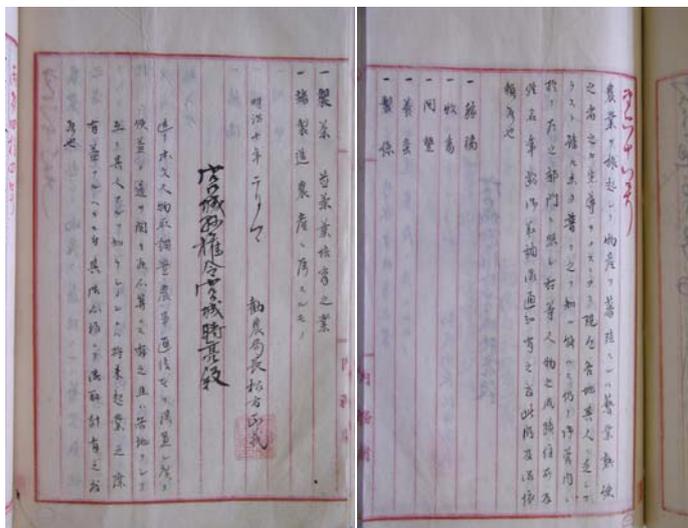
平成18年6月1日



所蔵資料の紹介「明治初期の産業振興」	1頁
県政広報展示室資料展から「公文書からみた観光地・松島の成立」	2頁
公文書館の仕事「公文書館見学」	3頁
宮城県の一口知識「松島パークホテル」	//
寄贈図書紹介、所蔵状況・資料検索について、ほか	4頁



「資料二」宮城県乙号達（明治十一年一月）  
（M11-0061）



「資料一」内務省勸農局長松方正義より  
宮城県権令宮城時亮へ  
（M10-0011）

## 所蔵資料の紹介

### 明治初期の産業振興

明治政府は、明治六年（一八七三年）に内務省を設置して以来、全国的な産業振興を推進していた。

「資料一」は、明治十年（一八七七年）二月、内務省勸農局長松方正義から宮城県に出された、農業の振興に関わる調査依頼である。「農業の振興には、農業に熟達した者の指導が必要不可欠である。各地に熟練者はいるのだろうか、いまだ把握できていない。よって、熟練者について調査し、その人物の氏名などを知らせてほしい。」という内容になっている。中でも、重要な調査部門として、<sup>かしこ</sup>稼穡（農作物）・牧畜・開墾・養蚕・製紙・製茶を挙げている。また、「各地に熟練者の情報があれば、起業する際に有益だ」とも述べ、産業振興における人材の必要性を強調している。

明治初期の宮城県は、まだ新しい産業を育成する状況にはなく、まずは伝統的な米作を中心とする農業の振興が重視された。中でも、山間部での産業として注目されたのが、藩政時代から実績があり、明治政府も重視していた養蚕だった。

明治十年三月、宮城県は、仙台区大町一丁目、養蚕所（養蚕試験場）を設置した。養蚕所では、教師を雇い、士族平民を問わず県内各地から試験で選ばれた生徒に、無償で養蚕全般の知識・技術を指導していたことが「資料二」からわかる。（受験資格は、①身体剛健にして種痘をした者、②満二十才以上四十才以下の者、③品行方正で蚕業を特に志す者、とある。）。この後、養蚕所の人材育成とともに、宮城県の養蚕は発展を遂げていくのである。

明治四十二年（一九〇九年）、日本の生糸の輸出量は、中国を抜いて世界一となる。今も昔も、産業振興の重要な要素のひとつが「人材」であることに変わりはない。

県政広報展示室資料展から

公文書からみた観光地・松島の成立

日本三景松島。江戸初期の儒者である

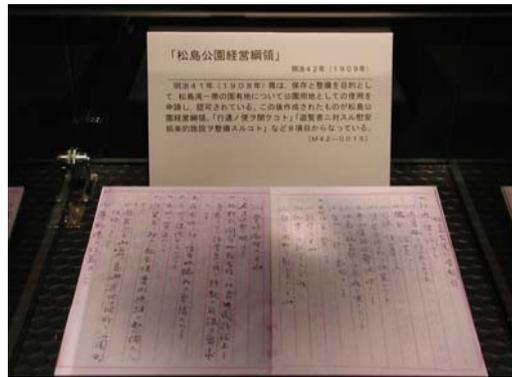
林鷺峯（春齋）<sup>がほう</sup>がその著書の中で、松島・

宮島・天橋立を「日本三処奇観」と称したことが、日本三景のはじまりとされます。しかし、明治維新以降の混乱と開発によって、松島の文化財と自然環境は



松島公園内ホテル及び巡航船経営に関する契約（明治44年）

県は、北村重昌と、パークホテルとして使用する県有の土地建物及び県が建造する松島湾内定期巡航船の賃借契約を結んだ。



松島公園経営綱領（明治42年）

「行通ノ便ヲ開クコト」など、8項目からなっている。

明治四十一年（一九〇八年）、松島湾一帯の国有地を、県が公園用地として使用することが認可されます。そして、翌年作成された、松島公園経営綱領に基づいて、「観光地・松島」の本格的な開発・整備が始まります。宮城県における観光事業の先駆けとなった松島。その開発・整備に、行政がいかに関わったかを示す、明治末期から昭和初期にかけての資料を展示しております。

■ 展示資料 ■

No.	年代	資料名	No.	年代	資料名
1	明治22年	松島湾内名区引直しの件	9	明治45年	栗原郡宮澤村県債承諾書
2	明治42年	松島公園経営綱領	10	大正2年	五大堂修理工事
3	明治43年	日英博覧会における松島紹介	11	大正4年	松島公園経営報告
4	明治43年	松島公園用地買収	12	大正6年	電気鉄道事業経営許可申請書
5	明治44年	松島公園内ホテル及び巡航船経営に関する契約	13	大正2年	「パークホテル」命名申請
6	明治44年	松島公園旅館建設予算	14	大正4年	パークホテル1階平面図、写真(昭和10年)
7	----	大正期の松島風景(松島湾、五大堂)	15	大正14年	水族館土地使用願及び入場口設計図
8	明治45年	松島観瀾亭賃借契約書	16	大正14年	水族館事業計画書



松島湾風景（大正期）



県政広報展示室資料展  
「公文書からみた  
観光地・松島の成立」  
開催期間  
平成十八年五月十五日(月)  
～六月二十三日(金)  
開催場所 県政広報展示室  
(県庁 行政庁舎18階)

## 公文書館見学

平成十八年五月十七日（水）に、東北学院大学文学部歴史学科日本現代史専攻の三・四年生九名が、ゼミ活動の一環として、当館を見学に訪れました。

館長より、概要説明を行ったあとの質疑応答では、博物館や図書館とも異なる当館について、学生の皆さんから様々な質問が飛び交いました。

そして、概要説明・質疑応答のあとに、施設内を案内しました。職員より



検索用パソコン（閲覧室）

閲覧室の利用方法や公文書の保存・取扱いについて説明を行ったあとに、利用者の方は普段立ち入りできない書庫を案内しました。ここでも、実際に資料を目の前にして、たくさんの質問が出されました。見学後、学生の皆さんから、公文書館の資料を十分に活用し、実りある卒業論文を作成したいという声を聞くことができ、当館にとっても大変意義あるものとなりました。これからも、公文書館の普及活動の一環として、見学者の受入を行いますので、お気軽に宮城県公文書館までご連絡ください。



資料の劣化を抑える中性紙製保存箱

## ―東北初の国際観光ホテル― 松島パークホテル

明治四十五年（一九一二年）四月、県は、松島の観光ホテル建設に取りかかりました。予算は四万円、場所は現在の松島公園中心部です。

設計者は、後に原爆ドームを設計するヤン・レツル氏。三層の塔を中心に両翼を広げた形の洋風建築ですが、和風の外観が、松島の風景によく調和していました。

着工の前年に、県は、東京でホテル業を営む北村重昌氏と、ホテルに使用する土地建物の貸借契約を結んでおり、大正二年（一九一三年）八月、「松島パークホテル」がオープンします。

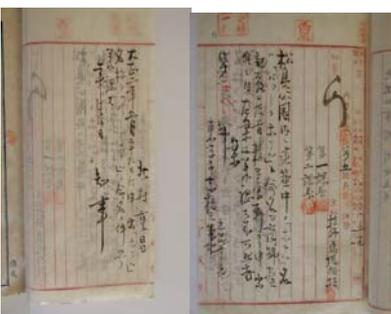


松島パークホテルを訪れたオーストラリア女学生一行（昭和10年）

その後、海外から訪れる観光客や視察団が急速に増え、国際観光ホテルとして松島のシンボルになるとともに、「国際観光地・松島」の知名度を上げることに大きく貢献しました。

昭和二十年（一九四五年）、アメリカ進駐軍に接收されますが、昭和二十六年、県に返還されると、営業を再開しました。戦後も、松島観光の中心であり続け、昭和二十七年・同三十年には、宮城県を訪れた昭和天皇・香淳皇后が宿泊しています。

しかし、オープンから半世紀が過ぎ、老朽化が問題となる中、昭和四十四年（一九六九年）三月三日未明、ボイラー室からの出火により、松島パークホテルは全焼し、その歴史に幕を下ろしました。県が、博物館としての保存を検討していた矢先のことでした。



「パークホテル」命名  
（大正2年5月）

## 寄贈図書紹介

関係機関から寄贈されました書籍の一部をご紹介します。

『三重の絵図・地図』 三重県

『青森県史叢書 下北の仏像』 青森県

『岡山県立記録史料館紀要 第1号』

岡山県立記録史料館

『図録集 中国美の十字路展』

東北歴史博物館

『上越市史研究第1号〜第10号』

新潟県上越市

『山口県文書館蔵吉田松陰関係資料目録』  
山口県文書館

『水産総合研究センター所蔵古文書目録』  
独立行政法人水産総合研究センター

『学校教材史料集第2号』

栃木県立文書館

## 所蔵状況・資料検索について

宮城県公文書館では、明治以降の県庁文書を中心に、絵図面や行政資料を体系的に収集・整理し、保存しています。

平成十八年三月末現在の所蔵数は、公文書が三〇、三六七冊で、その内三十年を経過した閲覧対象のものが二三、〇八二冊、絵図面が一、四六五枚となっております。その他、行政資料も多数ございます。

また、当館では、「年度別・分野別閲覧台帳」のほか、「データベースシステム」による「公文書館資料検索システム」を二階閲覧室に設置しております。その他、レファレンスサービスも行ってまいりますので、こちらもあわせてご利用ください。

『足元からみる民俗(14)』  
仙台市歴史民俗資料館

『アーカイブズ23号』国立公文書館

『広島市公文書館所蔵資料目録第35集 写真』  
広島市公文書館

## 企画展御案内

平成十八年十月より

**企画展** を開催いたします。

皆様の御来館をお待ちしております。

## 利用案内

### 開館時間

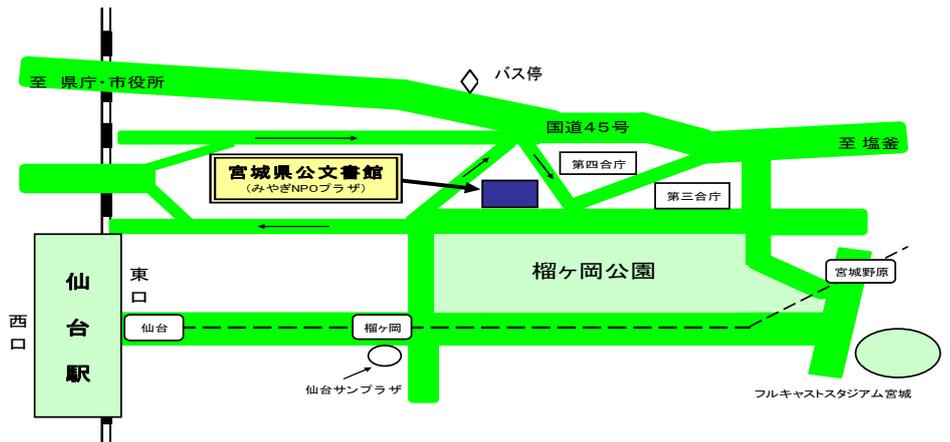
午前9時から午後5時まで

### 休館日

- ・ 月曜日
- ・ 国民の祝日・休日  
(土曜日・日曜日に当たる日を除く)
- ・ 年末年始
- ・ 臨時休館(特別整理期間等)

### 交通のご案内

- ・ 電車の場合  
JR仙石線榴ヶ岡駅下車  
(徒歩7分)
- ・ バスの場合  
仙台市営バス、宮城交通  
「第四合同庁舎前バス停」下車



## 公文書館だより

— 第九号 —

平成十八年六月一日 発行  
編集発行  
宮城県公文書館  
〒九八三-〇八五一  
宮城県仙台市宮城野区榴ヶ岡五  
Tel. 〇二二-七九一-九三三三